

令和元年度 埼玉県立大宮商業高等学校 全日制課程 卒業証書授与式 式辞

やわらかな陽射しとともに、桜のつぼみも少しずつ膨らみはじめ、春の訪れを感じさせる今日の佳き日に、埼玉県立大宮商業高等学校、第66回卒業証書授与式を挙げていきますことは、卒業生はもとより、私ども職員一同にとりまして、この上ない喜びであり、心から感謝申し上げます。

本来であれば、多数の御来賓の皆様並びに保護者の皆様に御臨席を賜り、盛大に挙げる予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、縮小した形となりました。

本日、卒業証書を授与いたしました217名の卒業生の皆さん、御卒業おめでとうございます。また、保護者の皆様、お子様の御卒業、誠にありがとうございます。お子様の確かな成長を感じつつ、喜びもひとしおのことと御推察申し上げます。3年間、本校の教育活動に御理解御支援を賜り、お子様や学校を温かく見守り、共に多くの苦勞を乗り越えていただいたことに厚くお礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

皆さんは、3年間の高校生活で、勉学をはじめ、ホームルーム活動及び学校行事や部活動などで大いに力を発揮し、素晴らしい成果を収め、本校の歴史に新たな1ページを刻んでくれました。本当にありがとうございます。そして、いつも皆さんを温かく見守り続けてくださった御家族の皆様や、時に厳しく時に優しく指導してくださった先生方、共に笑い共に泣いた友人、先輩や後輩の支えがあったからこそ、この感激や達成感を得ることができたことを決して忘れないでほしいと思います。

さて、現在の社会は、少子高齢化やグローバル化が進み、大きく様変わりしようとしています。さらに、企業を中心に働き方改革に取り組む中、人工知能いわゆるAIやロボットなど、新たな科学技術の役割が注目されています。皆さんは、私たち大人が経験したことのない環境の中で生きていくことになります。そのような社会環境の中でも、皆さんには、たくましく生き生きと歩みを進めてもらいたいと願っています。

卒業にあたり、私から贈りたい言葉、心の片隅に置いておいてもらいたいことがあります。それは、「いついかなる時も、相手を尊重し、誠実に向き合うことができる人であってほしい」ということです。相手を尊重するということは、その人自身の文化や環境を丸ごと受け止めることができる寛容さを持つということです。誠実に向き合うということは、真心を持って人と繋がろうとする気持ちを行動に表すことです。

皆さん、ブレディみかこ氏の『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』という本を知っていますか。この本は、ブレディみかこ氏の息子さんが主人公です。日本人と英国人の両親を持つ息子さんは、英国ロンドンの海辺の町の公立中学校に通っていました。そこでの生活は、移民問題や貧困問題が背景にあり、次々と問題が起こります。その中で息子さんが様々な問題をしっかりと受け止め、深く考えることで、乗り越えていく姿が描かれています。これからの社会は、さらに多様性が進むと言われています。皆さんには、周囲の環境に惑わされることなく、物事を公平公正に見る力を持ってほしいと思います。相手のことを丸ごと受け止める寛容さを持ち、人と誠実に向き合うことができる大人になってください。

今日で、皆さんは伝統ある宮商の卒業生として旅立ちます。私は、皆さんとは、ともに宮商での学校生活をスタートしました。しかし、今日でお別れです。校長として、217名の皆さんは、自慢であり、誇りです。そして、皆さんが本校の生徒として、一生懸命学校生活に打ち込んでくれたことに改めて感謝します。これからも、夢と希望を持ち続け、困難に立ち向かっていってください。新たなステージへの第一歩をしっかりと踏み出してください。個性を力に、次のステージの自分に挑み、未来を切り拓いていく皆さんに心からエールを贈るとともに、応援団として、未来に幸多からんことを願っております。そのために、私たち職員一同、在校生とともに、皆さんの支えとなり、誇りと思える温かみのある学校、そして、母校にしていけることをお約束します。

結びに、保護者の皆様並びに地域の皆様に感謝を申し上げるとともに、今後とも本校に対しまして、御指導御支援を賜りますようお願い申し上げます、式辞といたします。

令和2年3月11日

埼玉県立大宮商業高等学校長 齋藤 俊樹